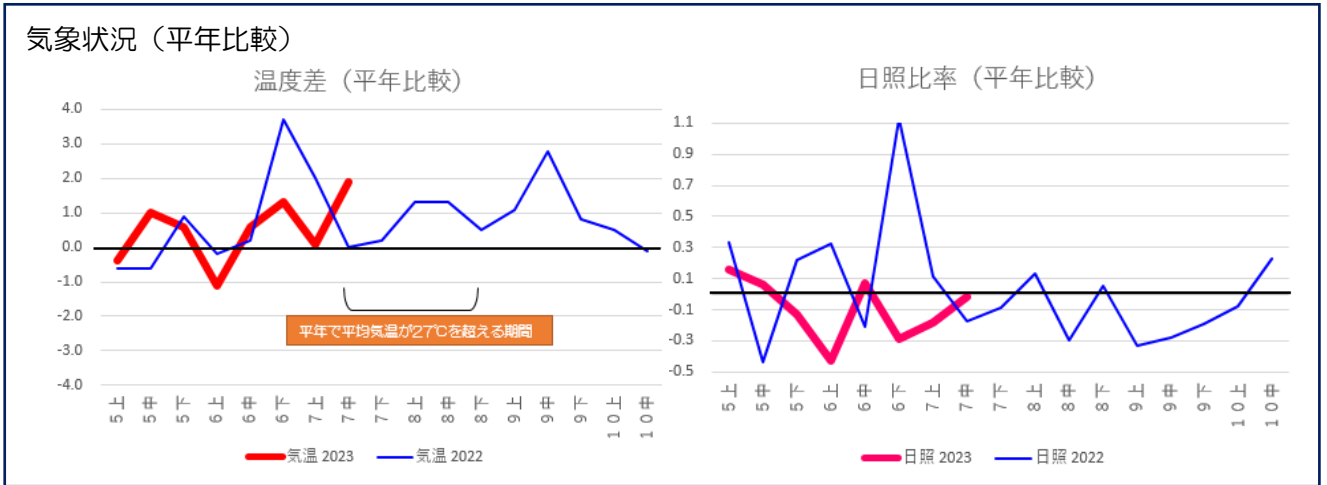


ひめの凜栽培技術情報

1 気象情報について



コメント

気温は、平年より7月上旬は平年並、7月中旬は1.9℃高く推移している。
日照は、平年より7月上旬は2割程度少なく、7月中旬は平年並で推移している。

2 栽培管理について

生育状況

○5月下旬田植の分けつは、平年と同程度。中干しが降雨の影響で一部少し長めとなった。
○6月上・中旬田植の分けつは、やや早まる傾向がみられ、中干しはやや早めに開始。茎数は増加している傾向がみられている。

中干し後の水管理

○中干し直後は、いきなり湛水せず走り水などを行い、徐々に入水する。
○幼穂形成期までは、間断灌水を励行し足跡水以上は乾かさない。
○幼穂形成期からは、徐々に水深を深くし湛水しやや深水とする。

中間追肥

○PKミックス、リヤ、刈酸加里は中干し後に実施することとし、開始は間断灌水開始後とする。

穂肥

○穂肥診断により、葉色に応じて穂肥を実施する。
○左表の出穂期予測(農林水産委研究所調べ)を参考にして適正量を施用する。

移植時期	5/10	5/20	6/1	6/10	6/20
松山	8/12	8/17	8/22	8/25	8/29

3 病害虫について

ブラスタム

	7/01	7/02	7/03	7/04	7/05	7/06	7/07	7/08	7/09	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20
松山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長浜	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
久万	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

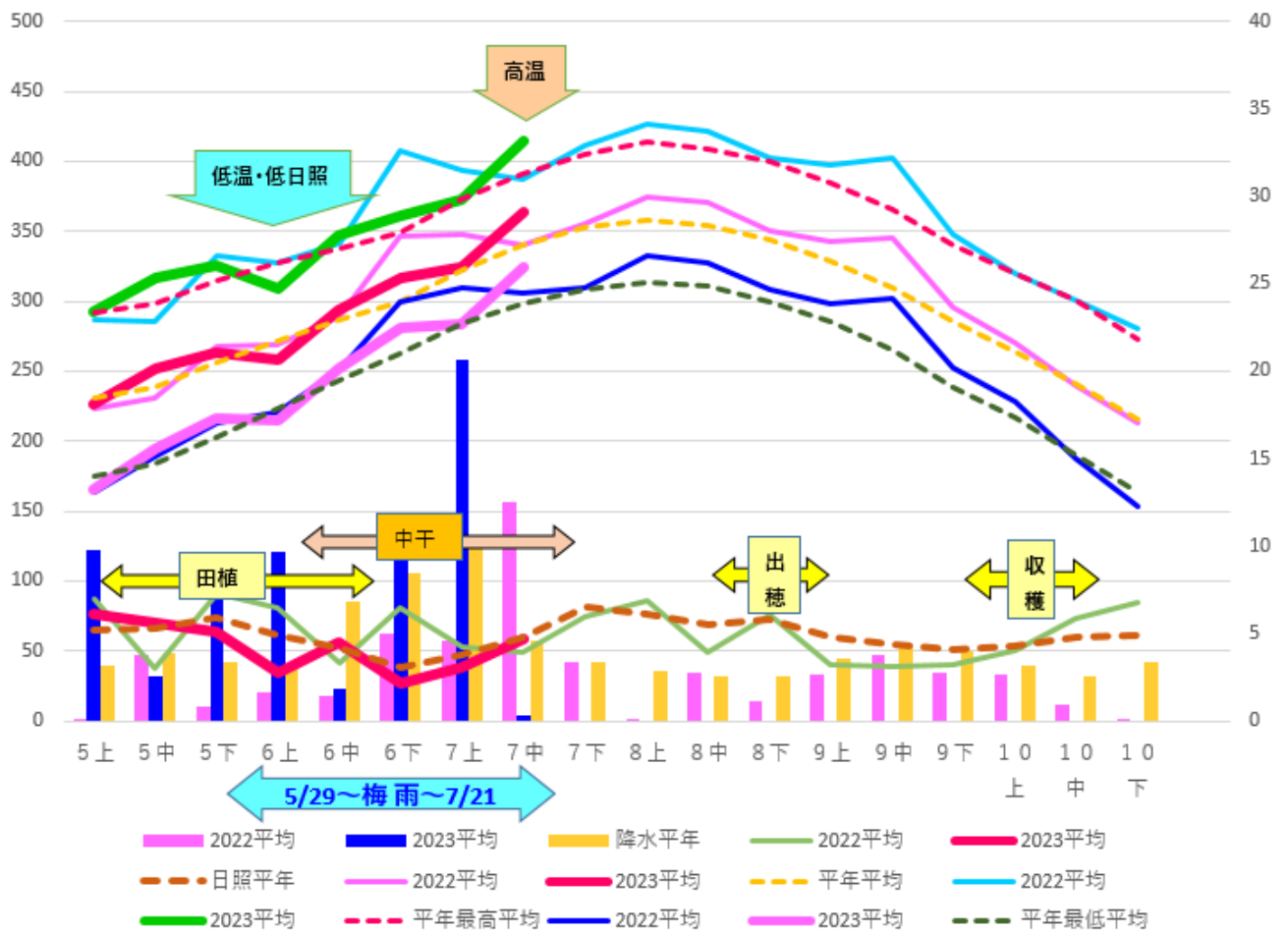
いもち病発生状況

○中予における、好適感染日は7/3、7/20の久万地域。
○県内ひめの凜で7/10に発生を確認しているが、程度は軽度（停滞病斑が中心）

トビロウカ飛来状況

○佐賀県：6/30（1頭）、7/1（12頭）、3（15頭）、4（4頭）
※愛媛県：7/1（1頭）御荘の予察灯での誘殺あり

気象状況（松山）



○中間追肥について

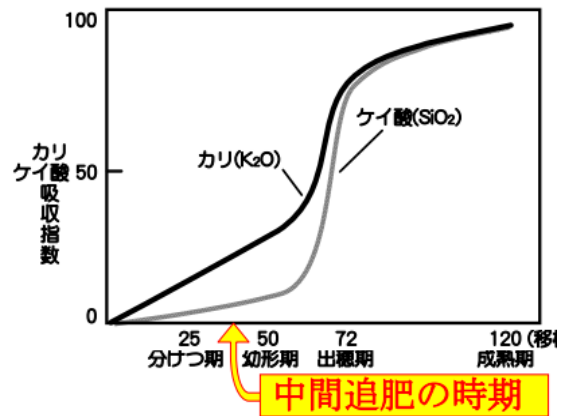
☆ケイ酸とカリ

ケイ酸とカリは特に生育後半に必要とされ、ケイ酸は90%、カリは70%が幼穂形成期以降に吸収される。

使い方（ケイ酸加里）

施肥時期：出穂 45～35日

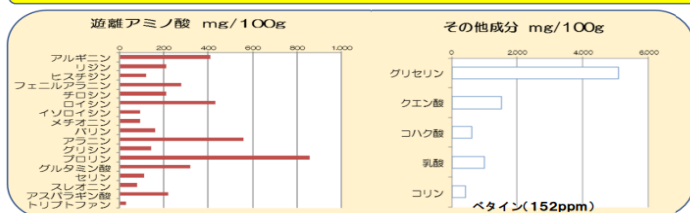
施肥量：20～40kg/10a



☆ソイヤー

アミノ酸により、発根促進・登熟促進が期待される。

ソイヤーに含まれるアミノ酸およびその他成分量（日本食品分析センター分析）



基肥一発体系の穂肥について

基本的に穂肥は行わない。

ただし、途中で極端に葉色が低下した場合は、穂肥前でも窒素成分で2kgを上限に施用する。

生育期間の高温や乾かし気味の水管理で被覆肥料からの肥効が低下し、葉色が淡くなる（**SPAD値で33以下**）ことがある



出穂前日数	- 4 0	- 3 0	- 2 0	- 1 0	0(出穂)
(6/10移植の時)	(7/18)	(7/28)	(8/7)	(8/17)	(8/27)
葉色が淡い時の対応	中間追肥*		穂肥**		

高温対策

飽水管理を徹底するとともに地域の用水の供給状況に応じ、適切に水管理（かけ流し・湛水など）を実施できるように準備を進めておく。

フェーン現象対策 【参考】

フェーン現象に備えて、深水管理に！（5cm以上）

※急激な高温により脱水状態になり、白穂や胴割粒を助長。
※深水は水分補給だけでなく風揺れを低減。

- 出穂期前後は最も水を必要とする時期。
→ 出穂時に土壤水分が維持されるよう水管理を徹底。
- ★ フェーン情報や台風情報等に注意し、湛水できるように準備。
- ※ 出穂期 30日後までは飽水管理を徹底。
→ 可能な限り遅くまで土壤水分を保持のこと。
× 常時湛水や表面の土が白く乾くまで干さない。
- ★ 台風情報等に注意し、強風・フェーン現象等による高温・乾燥が予想される場合には、品質と収量の低下（白穂、白未熟粒、胴割れ）を軽減するため、早めの湛水に努めること。
- ★ フェーン現象や強風の日は終日深水管理とし、収まったら直ちに落水。

生育と水管理（イメージ）

